学校教育目標	自分の力で考え、ともに伸びる ～ かしこく・やさしく・たくましく ～		
--------	------------------------------------	--	--

a ミッション	小中連携の推進による、自立性・協働性の育成	a ビジョン	学んでよかった・通わせてよかったと思っただけの学校に ～「全力」「感動」「挑戦」を言葉に、学びの笑・楽・校を創ります～
---------	-----------------------	--------	--

尾道市立西線小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
確かな学力	か こ く	自立的に問題を解決する児童の育成 自立的に問題を解決する児童の育成 ・導入における課題設定の工夫「困り感」「身近な生活場面との関連」 個別最適な学びに向けたデジタルコンテンツ等の活用 ・自己決定、自己選択	・算数科の単元末テスト（思・判・表）の平均点が80点をこえる児童の割合	70%	63%	70%	100%	B	・算数科の単元末テスト（思・判・表）の平均点が80点をこえる児童の割合は70%であり目標を達成した。しかし、どの学年も単元によっては平均点が低いテストがあり、定着が不十分な部分については、年度内の復習が必要である。 ・知識・技能の観点で60点を下回った児童の割合は目標を達成したが、学年によっては10%を帯に上回っている状況もある。各学年の実態把握を十分にするとともに、学年別に対策を考える必要がある。自立的に問題解決することに対する児童の意識について肯定的な回答は92%であった。「困り感」を抱かせる問題提示や、選択式の練習問題など、多様な手立てが効果的であったと捉えている。 ・標準学力調査では、「全国平均を超えている」もしくは「全国平均との差が昨年よりも小さくなった」学年が、国語科算数科ともに6学年中5学年あった。学力テストを6学年で実施して、計画的に実施したことや、スキルトイを活用した反復学習が効果的であった。	2	イ	ロ	ハ	・反復学習により効果が上がったのほかに、朝のスキルトイ作成等、児童にとってもっとも励みになったのではないかとと思う。 低学年のうち底上げが必要、高学年になると理解できないことは取り扱まなくなってくる。児童が楽しめる授業づくりを期待している。 ・理系・文系問わず数学が必要となっていくため、小学校から苦手意識をもたず取り組んでいけることが望ましいと思います。 ・現在の取組はよいと思いますが、異学年の交流が盛んな西線校であれば、上級生が下級生に勉強を教える機会をつくることで、上級生がきちんと理解できているかもわかり、下級生も聞きやすいのではないかと思います。 クラスの中でも積極的に教え合える環境をつくることもよいのではないかと思います。	・基礎的基本的な学力の定着に向けて、朝のスキルトイを充実させるために教材の開発を行った。教材の充実を今後も行う事で、児童が意欲を持って行えるようにするとともに、各学年によって実態に差があるため、各学年分野に特化した内容の実施を検討する。 ・学力テストにも対応できるように応用力を育成するために、教材を作成し、朝のスキルトイで計画的に実施した。学力調査の結果、数値の向上が見られたため、来年度も継続の取組とし、教材の充実を図る。 ・1学期に作成した資質能力に関わるルブリックを児童と共有することで、児童が自らの学び方を意識できるようにした。しかし、児童が十分理解し、学習に有効的に活用されたとは言いえない。高小中校で目指す児童の姿を共有するとともに、児童が意識できるように方法を検討していく。
			・算数科の単元末テスト（知識技能）の平均点が60点以下の児童の割合	10%	7%	6%	116%	A							
			・自立的に問題解決することに対する児童の意識（アンケートによる肯定的回答3段階以上）	80%	90%	92%	115%	A							
豊かな心	や せ く	お互いの違いを受け入れ、良さを認め合い、相手や時と場に応じた生活ができる児童の育成 声を掛け合えるつながり作り ・挨拶運動 ・ありがとう・いいね箱 ・異学年交流	・月毎に設定する挨拶の自己目標を80%以上達成した児童の割合	80%	81%	87%	109%	A	・挨拶カードがなくてももしっかりできる児童と全く挨拶をしない児童が両極端に思える。挨拶の大切さの学校での声かけ、そして、保護者への投げかけは今後必要だと思ふ。 ・学校の先生や友達、地域の人とのつながりや周りの人への思いやりを大切にできる児童になって欲しい。 ・以前は、保護者に向けての講演会等もあり、よいお話を聞かせていただいていた。そういった行事があると子育てのヒントにもなるのでは。 ・あいさつの取組は、結果を出すことはなかなか難しいことかもしれませんが、誰かが見ているからあいさつをするということがきっかけであってよいのでは、あいさつが自然にできるようになればと思います。 学校で見かける光景で、違う学年の子が一緒にいるのをよく見かけます。西線小のよさだと思います。保護者のこともよく覚えてくれ話しかけてくれます。他人に関心をもっているということだと思いますし、自分から話しかけることができる環境であり、しっかりコミュニケーションがとれているのを感じます。	2	イ	ロ	ハ	・あいさつカードのやりとりについては、異学年の友達との交流がより広がるような取組を検討する。 ・地域の方の見守りや挨拶のご協力により、地域でも挨拶ができる児童が広がっている。さらに、あいさつ週間だけではなく、日常的に挨拶ができる取組を進める。 ・継続的に、挨拶週間での頑張りを学級で紹介し、意欲づけを行う。 ・異学年交流が進むように、縦割りの掃除、児童会が進める全体遊び、いいこと見つけ等の取組と合わせて計画する。異学年の児童とのつながりを広げる。 ・挨拶の取組が進むように、学級・下校集会等を通して声かけをして意識づける。	
			・もらったあいさつカードが自分の立てた目標枚数を達成した児童の割合	80%	36%	54%	68%	C							
			・アンケートで休憩時間に体を動かすことが楽しいと答える児童の割合	85%	67%	85%	100%	A							
健やかな体の育成	た く ま し く	健康な生活について考え、体づくりに取り組む児童の育成 楽しい体育授業の充実 ・休憩時間で行える楽しい運動方法の共有 ・楽しい運動を取り入れた授業改善	・アンケートで体育の授業で体を動かすことは楽しいと答える児童の割合	80%	79%	88%	110%	A	・縄跳びや持久走等、体を動かすことが苦手な児童にとっては、大変なことは先のことと考えてもとても大切なことだと思ふ。そこに先生も加わってくれば、児童は楽しみながら外遊びができ、とてもよいことだと思う。気温によっては、外遊びができない日もあり、部屋に閉じこもりがちな児童に外遊びの楽しさ・体を動かすことの楽しさを継続して伝えてほしい。 ・夏季の取り組み方を考えることで年間を通して安定して体づくりに取り組めるようになります。 ・「逃走中」全校児童と一緒に取り組んで、保護者とも交流できるよい機会だったと思うので、今後このような取組を行うようにしていきたい。	2	イ	ロ	ハ	・休憩時間に外で遊ぶ児童を増やすために、なわとびカードを配付した。来年度も継続して行う。 ・体育の授業による全校で外で遊ぶ機会を設けた。しかし、普段の休憩時間に遊ぶには、少し難しい内容であったため、遊びやすいものを提案し、実施していく。 ・休憩時間に外で遊びやすいように、ドッジボールのラインを引いたり、遊び道具を積極的に貸し出したりする。 ・体育の授業の中で、準備体操や活動にゲーム性を持たせたり、リズムダンスなどを取り入れたりする。また、児童が成長を感じることができるように、ベース走など毎年記録を残していくことで、体育の授業が楽しいと感じられるようにしていく。	
			・アンケートで休憩時間に体を動かすことが楽しいと答える児童の割合	85%	67%	85%	100%	A							

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 B：80≦（ほぼ達成）<100
 C：60≦（もう少し）<80
 D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。